

農林中央金庫

NORINCHUKIN

農林中央金庫における 社会的インパクトの実現に向けた取組みについて

2025年2月4日
農 林 中 央 金 庫

- 資産（貸出金、有価証券などのバランスシートの左側）における自然資本・生物多様性の関係性のみならず、負債（会員からの預金、ひいては農業者からの貯金）にも**気候や自然資本・生物多様性との強いつながり**があるユニークな金融機関。
- 投融資先・ステークホルダーに対する金融・非金融を通じた貢献により、機会の獲得とリスクの緩和を図り、ポジティブ・インパクトの創出、ネガティブ・インパクトの低減に取り組む

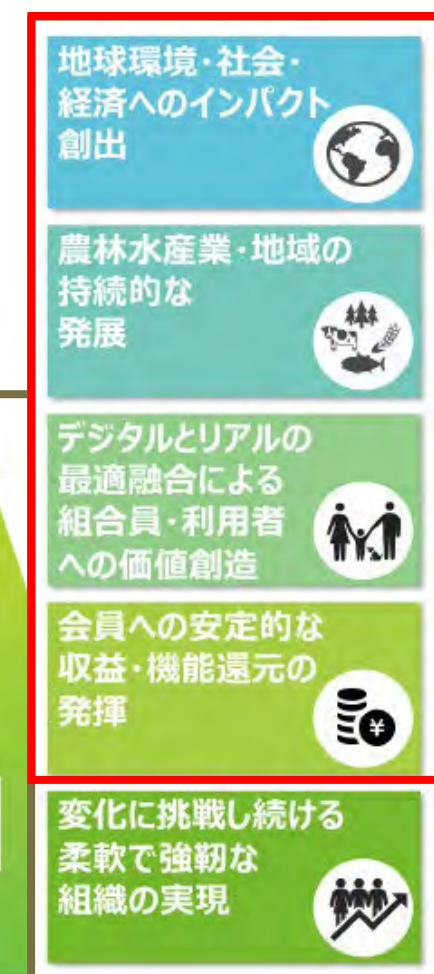
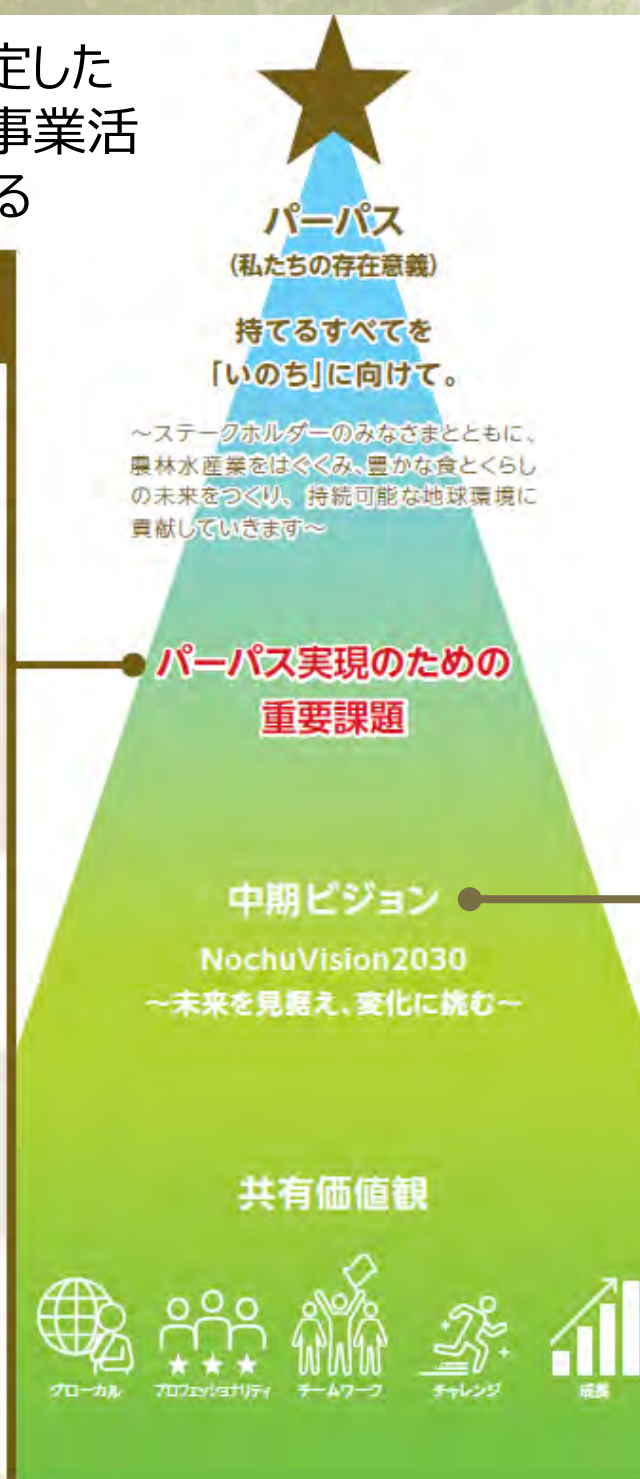
当金庫と自然との関係性(バリューチェーンを通じた自然との接点)



パーパス実現のためのマテリアリティと中期ビジョンにおけるインパクトの位置づけ

- リスク・機会や及ぼし得るインパクト、ステークホルダーからの期待を考慮し設定した「パーパス実現のための重要課題」、および「中期ビジョン」を踏まえ、日々の事業活動を通じて、リスク・機会への対応と、ネットでポジティブインパクトの創出を図る

パーパス実現のための重要課題	財務影響やインパクトの例			主な取組み
	リスク	機会	インパクト	
1 脱炭素社会の実現 	- 政策や市場等の変化、自然災害に伴う与信コストの増加 - 気候変動に配慮しない事業活動への批判 - 農林水産業や地域の持続可能性低下による事業基盤への影響	気候変動に関する投融資・ビジネス拡大	ステークホルダーエンゲージメントを通じたGHG排出量の削減、地球の気温上昇抑制に貢献	- 投融資先GHG 2050年ネットゼロに向けた対応 - 会員と一体となった森林由来CO₂吸収量増加に向けた取組み（2030年度で900万tCO₂/年） - 農林中金グループ拠点GHG 2030年度ネットゼロに向けた対応 - サステナブル・ファイナンス（新規実行額 2030年度までに10兆円※）
2 自然と共生する社会の実現 	- 政策や市場等の変化、自然災害に伴う与信コストの増加 - 自然環境に配慮しない事業活動への批判 - 農林水産業や地域の持続可能性低下による事業基盤への影響	自然資本・生物多様性に関する投融資・ビジネス拡大	ステークホルダーエンゲージメントを通じたネイチャーポジティブな社会への貢献	- 分析、開示、ソリューション提供の充実・高度化 - 会員や投融資先との連携を通じたサーキュラーエコノミー、循環型農林水産業への移行支援
3 農林水産業の“稼ぐ力”の強化 	農林水産業の担い手不足、地域経済縮小による事業基盤への影響	農林水産業・食農関連企業等への投融資やITデジタル等を活用したビジネス拡大	会員との協働による農林水産業者所得の増加に貢献	担い手の抱える経営課題へのコンサルティング・ソリューション提供
4 強靱な食料システムの実現 	グローバルなサプライチェーンの寸断等に伴う農林水産業の持続可能性低下による事業基盤への影響	農林水産業・食農関連企業等への投融資やITデジタル等を活用したビジネス拡大	投融資や会員との協働による新たな食農バリューチェーンの構築を通じて、国内生産基盤の強化、食料自給率の向上に貢献	農林水産業者・食農バリューチェーン・イノベーション企業への成長資金供給
5 国内外での“豊かな暮らし”の実現 	- 国内地域における高齢化・人口減少等に伴う事業基盤への影響 - 国内外の事業活動において包摂性、公正性に配慮しないことへの批判 - グローバルな社会不安による事業活動への影響	- ITデジタル等を活用した地域金融サービスの展開 - 不平等や社会インフラなど社会関連課題解決に資する投融資・ビジネスの拡大	- 地域社会におけるウェルビーイング向上 - 事業活動を通じた社会の多様性・包摂性向上や健全な経済成長への貢献	- 会員の金融仲介機能発揮に向けた支援 - 人権方針に基づく対応 - ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン向上（女性管理者比率2030年度で13%、2040年度で30%）



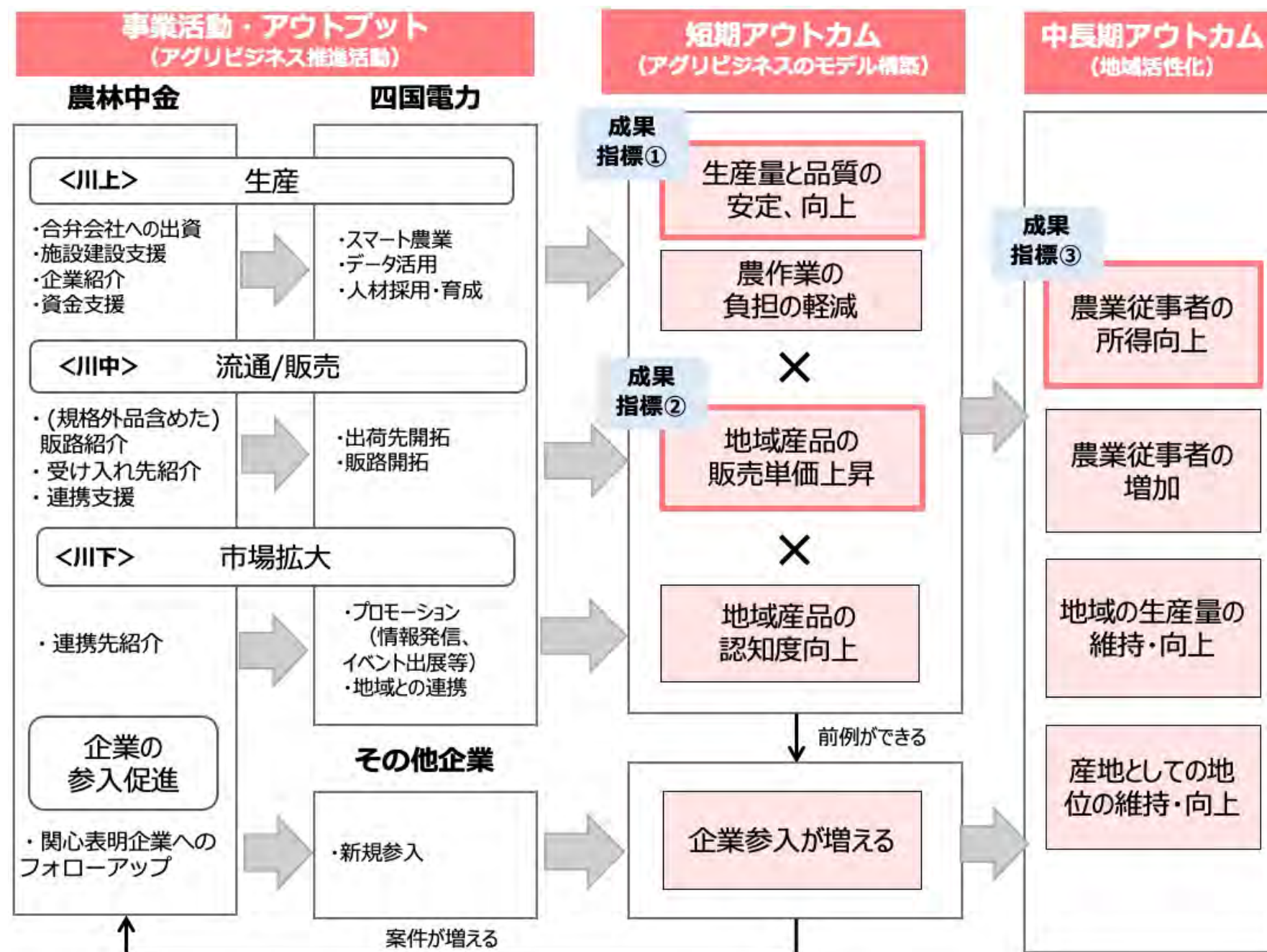


(事例紹介①) 四国電力と連携したアグリビジネス支援

- 四国電力が地域活性化を目指して農業法人を立ち上げる取組を全面サポート。
- 当金庫は資金提供だけでなく、JAや農家・行政との仲介、各種情報提供などを実施。

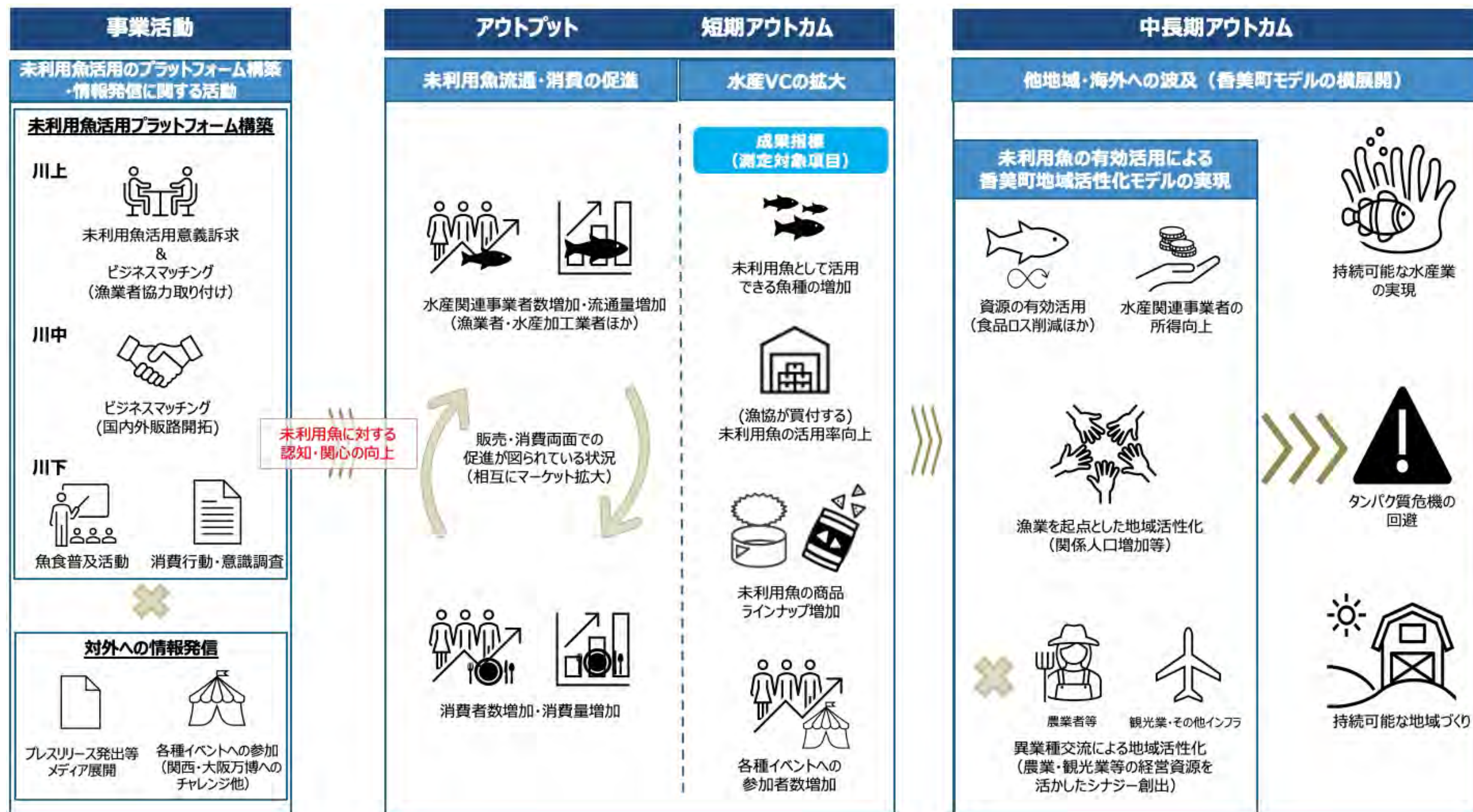


■ ロジックモデル作成、インパクト評価の試行的な取り組みを経て、**横展開のため社内用IMM※ガイドンスを策定へ**



※ Impact Measurement and Management (インパクトの測定・マネジメント)

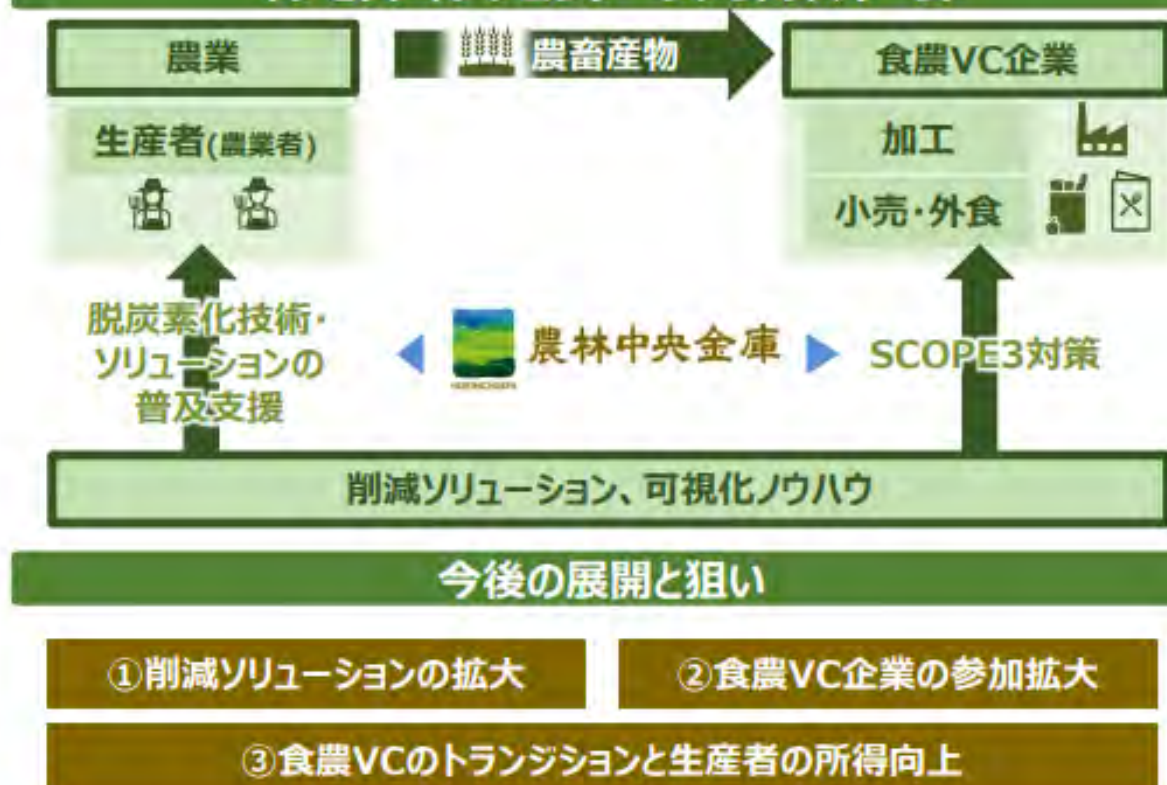
■ 漁業者の所得向上・地域の活性化を目指し「未利用魚」に着目して新たな水産バリューチェーン構築を目指す取り組み。



インセッティング^(※1) コンソーシアムの設立

- 当金庫は、(株)すかいらくホールディングス、(株)ニチレイフーズ、(株)TOWINGとともに「インセッティングコンソーシアム」を設立
- 当金庫はソリューションを有する企業への出資等も行いながら、新技術や農法、資材等を追加していくとともに、コンソーシアムへの賛同企業を増やしていくことで、食農VCにおけるトランジションと生産者の所得向上を目指す

インセッティングコンソーシアムのスキーム



(※1) 自社のバリューチェーンの中で GHG削減に取り組むことで、その効果をバリューチェーン全体で享受する仕組み

地域におけるネイチャーポジティブ・ブルーカーボンの推進

- 地域におけるネイチャーポジティブ・ブルーカーボンのモデルとなる取り組みを行政や会員との連携のなかで実践

鹿児島県 瀬戸内町 JF 瀬戸内漁協

奄美大島に位置する瀬戸内町と瀬戸内漁協は、水産資源の回復や海洋環境の維持を目的に、藻場再生やマングローブ造成に取組むブルーカーボンプロジェクトを実践

農林中央金庫 農林中金総合研究所
NORINCHUKIN Research Institute Co., Ltd.

自然共生サイト^(※2)への申請や水産物の高付加価値化、サステナブルツーリズムへの取組み等の戦略策定を支援

- 豊かな自然と漁業を両立する「瀬戸内町 ネリヤカナヤの海」として自然共生サイトに認定(2024年9月)。
- ブルーカーボンプロジェクトのさらなる発展に向けて連携継続

鹿児島県
瀬戸内町



瀬戸内町提供



当金庫撮影

(※2) 「自然共生サイト」は陸域と海域を2030年までに30%保全することを目指す「30by30」の達成に向けて、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する制度で、全国で253のサイトが認定されている(2024年9月末時点)